

東京2020オリンピック聖火リレーについて

1 東京2020オリンピック聖火リレー概要

東京2020組織委員会は2018年4月10日に東京2020オリンピック聖火リレーのコンセプトを発表し、2018年7月12日に実施日等を発表した。(別紙参照)

2 東京都聖火リレー実行委員会の設置

都内における聖火リレーの実施は、2020年7月10日から24日までの15日間で全62区市町村を巡るルートが想定されている。

東京都では、東京都聖火リレー実行委員会を設置し、都内ルートなど各種計画の検討、準備、実施を進めていく予定である。

[今後の主なスケジュール]

2018年 リレールート(案)等の選定

2019年 ランナー選考計画の策定及び公募・選考の実施等

3 今後の本区の対応

東京都聖火リレー実行委員会の動向を注視しながら、区内ルート選定やそれに伴うイベントについては協議・調整を図っていく。

東京2020オリンピック聖火リレー

東京2020オリンピック聖火リレーコンセプト：Hope Lights Our Way / 希望の道を、つなごう。

Hope Lights Our Way

— 希望の道を、つなごう。 —

東京2020オリンピック 聖火リレーコンセプト



オリンピック聖火は、平和や希望の象徴とされています。ギリシャの古代オリンピアの太陽光から採火されたオリンピック聖火は、オリンピック開催国において、オリンピックムーブメントの最も力強い象徴となり、聖火ランナーが、リレーによりつないでいきます。

東京2020聖火リレーのコンセプトは、Hope Lights Our Way（英語） / 希望の道を、つなごう（日本語）です。支えあい、認め合い、高めあう心でつなぐ聖火の光が、新しい時代の日の出となり、人々に希望の道を照らし出します。

オリンピック聖火があなたの街にも。2020年3月26日に福島県を出発し、全国を回ります！

東京2020オリンピック聖火リレーは、聖火の光が多くの人々にとって希望の道を照らしだすものとします。オリンピック聖火は2020年3月26日に福島県を出発し、以降全国を回り、喜びや情熱を伝えていきます。震災から10年目の被災地も訪れることになり、新しい時代の希望のオリンピック聖火リレーとして、復興に力を尽くされている方々にも、元気や力を届けてまいります。また、震災当時世界中から寄せられた支援や励ましに対し、震災から10年目の日本の姿を感謝の気持ちとともに発信し、困難を乗り越える人々の力・不屈の精神を、しっかりと伝えていきます。



オリンピック聖火リレー各都道府県実施日一覧

都道府県名	日程
1 福島県	2020年3月26日（木）～2020年3月28日（土）
2 栃木県	2020年3月29日（日）～2020年3月30日（月）
3 群馬県	2020年3月31日（火）～2020年4月1日（水）
4 長野県	2020年4月2日（木）～2020年4月3日（金）
5 岐阜県	2020年4月4日（土）～2020年4月5日（日）

6	愛知県	2020年4月6日(月)～2020年4月7日(火)
7	三重県	2020年4月8日(水)～2020年4月9日(木)
8	和歌山県	2020年4月10日(金)～2020年4月11日(土)
9	奈良県	2020年4月12日(日)～2020年4月13日(月)
10	大阪府	2020年4月14日(火)～2020年4月15日(水)
11	徳島県	2020年4月16日(木)～2020年4月17日(金)
12	香川県	2020年4月18日(土)～2020年4月19日(日)
13	高知県	2020年4月20日(月)～2020年4月21日(火)
14	愛媛県	2020年4月22日(水)～2020年4月23日(木)
15	大分県	2020年4月24日(金)～2020年4月25日(土)
16	宮崎県	2020年4月26日(日)～2020年4月27日(月)
17	鹿児島県	2020年4月28日(火)～2020年4月29日(水)
18	沖縄県	2020年5月2日(土)～2020年5月3日(日)
19	熊本県	2020年5月6日(水)～2020年5月7日(木)
20	長崎県	2020年5月8日(金)～2020年5月9日(土)
21	佐賀県	2020年5月10日(日)～2020年5月11日(月)
22	福岡県	2020年5月12日(火)～2020年5月13日(水)
23	山口県	2020年5月14日(木)～2020年5月15日(金)
24	島根県	2020年5月16日(土)～2020年5月17日(日)
25	広島県	2020年5月18日(月)～2020年5月19日(火)
26	岡山県	2020年5月20日(水)～2020年5月21日(木)
27	鳥取県	2020年5月22日(金)～2020年5月23日(土)
28	兵庫県	2020年5月24日(日)～2020年5月25日(月)
29	京都府	2020年5月26日(火)～2020年5月27日(水)
30	滋賀県	2020年5月28日(木)～2020年5月29日(金)
31	福井県	2020年5月30日(土)～2020年5月31日(日)
32	石川県	2020年6月1日(月)～2020年6月2日(火)

33	富山県	2020年6月3日(水)～2020年6月4日(木)
34	新潟県	2020年6月5日(金)～2020年6月6日(土)
35	山形県	2020年6月7日(日)～2020年6月8日(月)
36	秋田県	2020年6月9日(火)～2020年6月10日(水)
37	青森県	2020年6月11日(木)～2020年6月12日(金)
38	北海道	2020年6月14日(日)～2020年6月15日(月)
39	岩手県	2020年6月17日(水)～2020年6月19日(金)
40	宮城県	2020年6月20日(土)～2020年6月22日(月)
41	静岡県	2020年6月24日(水)～2020年6月26日(金)
42	山梨県	2020年6月27日(土)～2020年6月28日(日)
43	神奈川県	2020年6月29日(月)～2020年7月1日(水)
44	千葉県	2020年7月2日(木)～2020年7月4日(土)
45	茨城県	2020年7月5日(日)～2020年7月6日(月)
46	埼玉県	2020年7月7日(火)～2020年7月9日(木)
47	東京都	2020年7月10日(金)～2020年7月24日(金)

※東日本大震災被災3県(岩手、宮城、福島)については、日数の配慮をし、各県3日を設定。東京都については、開催都市としての位置づけを十分考慮し、15日を設定。複数種目を実施する4県(埼玉、千葉、神奈川、静岡)については、日数の配慮をし、各県3日を設定。上記以外の39道府県については、長野1998大会の各1日を上回る、各道府県2日としました。これにより、移動日を含む総日数は121日間となりました。

■ ルート選定の基本的な考え方

聖火リレーのルートは、基本的な考え方として、「日本全国47都道府県を回り、できるだけ多くの人々が見に行くことができるルート」、「安全かつ確実に聖火リレーが実施できる場所」を原則として、さらには、「地域が国内外に誇る場所や地域の新たな一面を気づかせる場所」、「聖火が通ることによって人々に新たな希望をもたらすことができる場所」に基づき今後決定してまいります。

※各都道府県内のルート案は、ルート選定の基本的な考え方を踏まえ、上記順番と日程を基に、各都道府県の実行委員会において選定を進めていただき、2019年に発表される予定です。

■ 復興の火

復興オリンピックの観点から、東京オリンピック聖火リレーの開催に先立ち、ギリシャで採火した火を「復興の火」として、被災3県(岩手、宮城、福島)で順次展示する予定です。

■ ランナー選定の基本的な考え方

東京2020オリンピック聖火リレーのランナーは、すべての人々を対象としつつ、下記の考え方に基づき、各都道府県やスポンサーが選考した候補者を含むすべてのランナーを組織委員会がとりまとめ、IOCの了解を得て決定いたします。

- ・国籍、障がいの有無、性別、年齢のバランスに配慮しながら、幅広い分野から選定し、開かれたリレーとする
- ・地域で活動している人を中心に選定

聖火リレー検討委員会での3つの視点

- ・日々の生活の中でも、家族、仲間、同僚などお互い支え合って、あきらめずにどんな困難にも立ち向かう人（復興・不屈の精神（支えあう心））
- ・様々な人々との違いを認めあいながら新たなものに取り組んでいる人（違いを認めあう包容力（認めあう心））
- ・ランナーとして走ることで、地域の一体感を高め合うことができる人（祝祭による一体感（高めあう心））

※具体のランナー選考基準は、上記考え方を踏まえ、ランナーの人数、ルート等が明らかになる2019年に選考方法とともに決定する予定です。本ウェブサイトでも随時お知らせしてまいります。

！ ポイントは4つ！

オリンピック聖火リレーの主役は、聖火ランナーだけではありません。沿道で見守る人、携わるスタッフなどすべての人々の東京2020大会への期待と興奮を載せて開会式会場となる新国立競技場へと運ばれる聖火。皆さまの思いを最大化すべく、オリンピック聖火リレーを次の4つのポイントから盛り上げます。

- ・日本全国を盛り上げるリレー
- ・地域の特色を活かしたリレー
- ・誰もが参加できるリレー
- ・持続可能/安全・確実なリレー



！ オリンピック聖火リレーとは

ギリシャ・オリンピアの太陽光で採火された炎を、ギリシャ国内と開催国内でリレーによって開会式までつなげるものです。

オリンピックのシンボルである聖火を掲げることにより、平和・団結・友愛といったオリンピックの理想を体現し、開催国全体にオリンピックを広め、きたるオリンピックへの関心と期待を呼び起こす役目を持っています。

近代オリンピックでは、パリ1924大会まで聖火はありませんでした。アムステルダム1928大会の際、スタジアムの外に塔を設置し、そこに火を灯し続けるという案が採用されたことが契機となり、現在のような聖火が誕生しました。

聖火は大会の数ヶ月前に古代オリンピックの聖地であるオリンピアの遺跡であるヘラ神殿前で採火されます。その後、多くの人によって開催地まで運ばれ、開会式当日に、最終ランナーによってメインスタジアムの聖火台に点火され、大会が終わるまで灯し続けられます。



！ パラリンピック聖火リレーとは

イギリスのストーク・マンデビルと、開催国内数か所聖火フェスティバルを行い、開催都市に集火して聖火リレーを行います。

最初のパラリンピック聖火リレーは、1988年ソウルパラリンピック競技大会で実施されました。このリレーのルートは105km、合計282人のランナーがパラリンピック聖火トーチを運びました。

パラリンピック聖火リレーは、パラリンピック聖火は皆のものであり、あらゆる個人・団体・都市のサポートメッセージ（スパーク）が集まって、都市の聖火点火イベントで炎を灯すエネルギーとなるという発想に基づいて運営されます。オリンピックからの移行期間中に勢いや興奮を維持し、人々にパラリンピックの精神及び価値を伝える役目を持っています。



※東京2020パラリンピック聖火リレーについては、新しい情報が入り次第、本ウェブサイト上で掲載いたします。